

## 参考資料 山梨の夏服について

### 1 経緯

山梨県の東部、富士山の麓に広がる郡内地域は 1000 年以上前から織物業が営まれている織物の産地です。この地域で生産されている織物を郡内織物と呼んでいます。

近年、全国的にビジネスカジュアルやリモートワークが普及し、ネクタイやスーツの裏地に強い郡内織物産地は苦境に立たされてきました。そこで、郡内織物を使った新製品として、令和4年度に、山梨県、富士吉田市、山梨県絹人織織物工業組合が協力して『山梨の夏服』を製作しました。

令和5年度には、改良を加え、甲斐絹縞2パターン、ワインレッド、生成り（白）の4デザインを7月に開催された全国知事会のオフィシャルウェアとして発表しました。

令和5年度秋には、山梨の夏服普及促進協議会が設立され、現在、実用化・一般販売に向けて、複数の新バージョン開発を進めています。



### 2 山梨県の織物産地について

山梨県の富士吉田市・西桂町・都留市・大月市・上野原市を含む郡内地域は、富士山の伏流水の恵みを活かし、糸を染めてから織る先染め織物の産地として長い歴史を持ちます。

郡内織物産地のルーツは、平安時代の法令集「延喜式」に見ることができ、甲斐の国は布をもって納めるよう記されています。江戸時代になると郡内織物産地の名前は全国に知られるようになり、明治時代には「甲斐絹」は夏目漱石の「虞美人草」等、文学作品にも登場するほど全国的に知られる織物となりました。



薄暗く夜着の模様を暈す上に、投げ懸けた羽織の裏が、乏しき光線をきらきらと聚める。裏は鼠の甲斐絹である。

—夏目漱石 「虞美人草」—

戦後は、甲斐絹で培われた技術を活かし、洋傘地、スーツ裏地、ネクタイなど、細番手、高密度で織り上げる難度の高い織物を国内外の高級インテリア・アパレルブランド等に供給して発展してきました。

近年では、産地の織物工場が自らブランドを立ち上げ、多彩なファクトリーブランドが数多く集まる産地として注目されています。



### 3 郡内織物や産地についてもっと知りたい方へ

参考となるホームページを紹介します。是非、郡内織物や郡内地域について、もっと知っていただき、「山梨の夏服」の素敵な愛称・シンボルマークをご応募ください。

- (1) 「山梨ハタオリ産地」：山梨県絹人織織物工業組合のHP

<https://yamanashi-tex.jp/>

- (2) 「ハタオリマチのハタ印」：山梨ハタオリ産地の今を伝えるポータルサイト

<https://hatajirushi.jp/home>

- (3) 「シケンジョテキ」：山梨県産業技術センター富士技術支援センター  
繊維技術部公式ブログ

<https://shikenjyo.blogspot.com/>

- (4) 「甲斐絹ミュージアム」：山梨県産業技術センター富士技術支援センターが所蔵する  
甲斐絹資料のデジタルアーカイブ

<https://www.pref.yamanashi.jp/kaiki/>

- (5) 「ハタオリマチフェスティバル」：富士山のお膝元、富士吉田市で開催される秋祭り  
(通称ハタフェス) のHP

<https://hatafes.jp/>

- (6) 「フジテキスタイルウィーク」：産地富士吉田市で開催されるテキスタイルと芸術が  
融合する国内唯一の布の芸術祭

<https://fujitextileweek.com/>

- (7) 「YAMANASHI DESIGN ARCHIVE」：山梨の色、形、パターン、物語。  
山梨らしさの表現とは？

<https://design-archive.pref.yamanashi.jp/>

多くの皆様からのご応募をお待ちしております。

山梨県 産業労働部産業振興課 地場産業振興担当